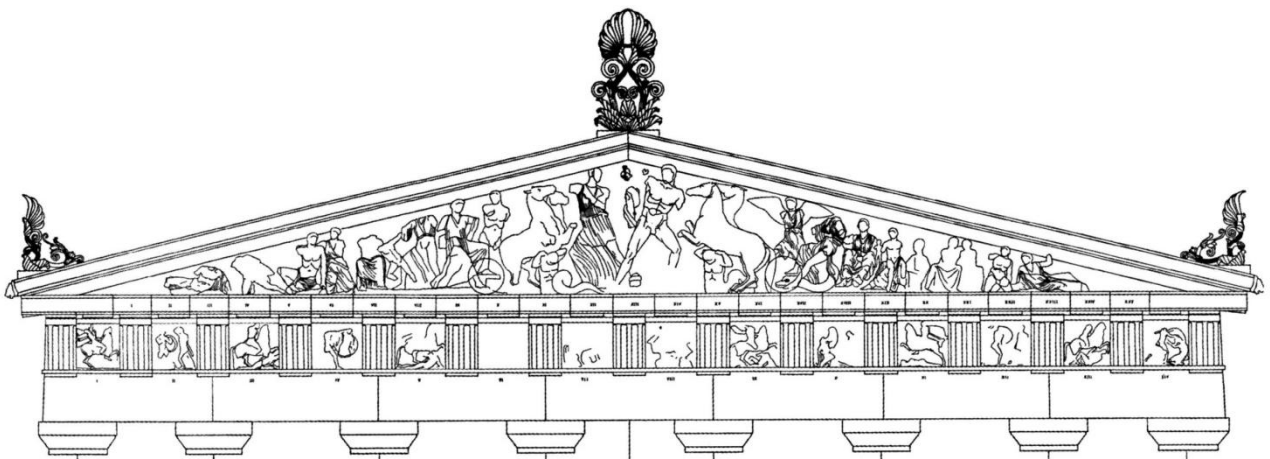


# Ryusan's Greece report



パルテノン神殿 東破風「アテナイの誕生」



パルテノン神殿 西破風「アテナイvs.ポセイドン:アテナイの勝利」

「るるぶ ギリシャ」および旅行会社のパンフレットなどからの引用がいたるところ混じっています。ご了解ください。

## 旅立ちまで

勤務先の内部誌に、2年連続で「もし、1週間の休暇があったら、何がしたいですか。」という質問があった。2年とも「豪華客船でクルーズ」と答えていた。余談であるが我が夫婦は、どちらも「雨男・雨女」で、昨年、上高地へ行った時も集中豪雨の中を山歩きする羽目になったほどである。それにも関わらず、5月末に何となくパスポートを作りに行った私は何者？

そんなある日、新聞の広告に「紺碧に輝くエーゲ海クルーズ」の広告を見つけた。エーゲ海クルーズといえば1つのステータス。しかも、料金手頃で夏休みに行ける！ということで、さっそくネットから申し込み。

次に情報収集に入る。市立図書館で資料を物色(自前で購入というポリシーの方もいるのですが、使用後の保管や老眼の進行によって紙媒体を持って余す状態のため自費購入は最小限としている。)したら、2015年6月発行の最新版『るるぶ』を発見！しかも、クルーズ特集のページ(次頁参照)が、まさに乗船予定の船(セレスティアル・オリンピア号：マルタ船籍 37,800t)だったというサプライズ。これによると、エーゲ海のクルーズ自体は船会社による設定で、往復の飛行機とアテネのホテルを旅行会社が組み合わせたツアーであることがわかった。

と旅行準備をすすめていた6月。例のギリシャ財政危機が発生、一時はユーロ圏から離脱(EUからも)の可能性もあった。国民投票でもEUの緊縮策には反対。しかし、チプラス首相は一転して緊縮財政策を実施することを表明、EUからも救済のための「つなぎ融資」を行うことになって一旦危機は脱したようである(このため、内閣の支持率は急落したが、それでも'15年8月現在60%以上という高率である。なお、9月に入って国会解散・総選挙を実施)。

ただし出発直前の情報では、現金なら買い物できるが預金引出しが制限されているため高額紙幣でのお釣りは出ないとか、クレジットカードでの買い物はできないとか言われていた。そこで両替は、小額紙幣(€5と€10札・€1≒¥137 2015年7月現在)にしておいた。

実際、アテネ市内でも早朝からATMの前に並ぶ人々をよく見かけた。1日の引出し額が€60(約¥8,000)に制限されているにも拘わらず、ATM内の現金がなくなると補充されないうらいしい。ただし、ギリシャの住民は、どこでも呑気というか財政的に追い詰められている印象はなかった。特に観光客である外国人には陽気に接していて治安の悪化も感じられなかったし、多くの場所で商店は23:00ごろまで営業しているなど意外と商売熱心だなあと思った。

まあ、現在の中道左派政権が作り出した財政赤字ではないわけであって、国民1人当たりの年収をすべて借金返済に充てればとりあえず完済できる債務である。どこかの国のようにGDPの260%の公債残高を出しても経済はひっくり返らないのだから、「経済学」とか「財政」とは一体何者なのだろう。

### エーゲ海(Aegean Sea)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/より抜粋>

地中海の一部を構成する海域。地中海の東北部にあたり、西と北をバルカン半島(ギリシャ共和国)、東をアナトリア半島(トルコ共和国)に囲まれた入り江状の海である。代表的な多島海であり、多くの島々(エーゲ海諸島)が存在する。

エーゲは古代ギリシャ語で波を意味した。エーゲ海は、ギリシャ語でアルキペラゴス(アルヒペラゴス、Αρχιπέλαγος:「主要な」ἀρχι-「海」πέλαγος)と呼ばれた。この語がのちに一般名詞化し、「多島海」や「諸島・群島」を意味する(アーキペラゴ 英: archipelago)となった。the Archipelago に対して日本語で「多島海」という訳が宛てられることがあるが、上述の通りもとの Αρχιπέλαγος 自体には「島が多い」という意味は含まれない。

神話によれば、テーセウスが生贖の一人としてクレタ島へ向かう時、無事脱出した場合には船に白い帆を掲げて帰還すると父王アイゲウスに約束していたが、約束を忘れ出航時の黒い帆のまま帰還したため、アイゲウスはテーセウスが死んだものと勘違いし絶望のあまり海へ身を投げて死んだため、アイゲウスにちなんで「エーゲ海」(エポニムという)となったとされる。



**Admiration of The Aegean Cruise**  
**エーゲ海**  
**果てしなく続く紺碧の世界へ**  
**クルーズの旅**

細やかなサービスと豪華な設備を誇るエーゲ海のクルーズは、ギリシャ旅行最大のハイライト。快適で便利なクルーズ船に乗り込み、宝石のように輝くエーゲ海の魅力をゆっくりとあてたい。

**目覚めるたびに新しい風景に出会う憧れのアイランドクルージング**

エーゲ海に浮かぶ島々はそれぞれ違った魅力があり、主要な島はほぼ1日かけて訪れてみたいところ。また、島々には自然とできた温泉やビーチもあり、休暇に多くの時間を費やしてみよう。エーゲ海クルーズ最大の魅力は、歴史豊かな島々を巡るだけでなく、美しい自然風景が楽しめること。船程中にも大層な楽しみ、度々豪華な食事やサービス、船中では様々なアクティビティやショーが楽しめます。バラエティに富んだプログラムも盛り込まれており、エーゲ海クルーズならではの楽しみが満載です。

**4泊5日クルーズ日程表**

船名	乗客数	入船料	定額料
1泊	ビレウス		1100
2泊	ニコス島	1800	2300
3泊	クササダ(トルコ)	0700	1300
4泊	パトモス島	1600	2100
5泊	ロドス島	0700	1800
6泊	クレタ島	0700	1130
7泊	サントリーニ島	1630	2100
8泊	ビレウス		0600

※こちらが乗った船「セレスティアル オリμπピア号」について

総トン数	37,584t	全長	214.88m	全幅	28.4m	喫水	7m
航海速度	19knt	最大乗客人員	1,450人	客室数	724室	船籍	マルタ

**Part 2 4泊5日のクルーズで寄港するエーゲ海の島々**

4泊5日のクルーズに立ち寄るのは全部が6スポット、それぞれの場所での時間は限られているが、クルーズ主催の無料エクスカーションに参加すれば、効率よく島巡りが楽しめる。

**1日目 07:00-13:00**  
**ミコノス島 Mykonos**  
 ロマンチックな夕暮れの街を散策

**2日目 07:00-13:00**  
**クササダ(トルコ) Kusadasi**  
 古代都市エフェソスの遺跡はまざまざ

**3日目 07:00-13:00**  
**パトモス島 Patmos**  
 聖書を記した聖母マリアの聖地

**4日目 07:00-13:00**  
**ロドス島 Rhodes**  
 世界遺産の街並みと美しい自然が魅力

**5日目 07:00-13:00**  
**クレタ島 Kreta**  
 ミノア文明を生んだ遺跡が満載

**6日目 16:30-21:00**  
**サントリーニ島 Santorini**  
 ユーゴボイを代表する美しいリゾート

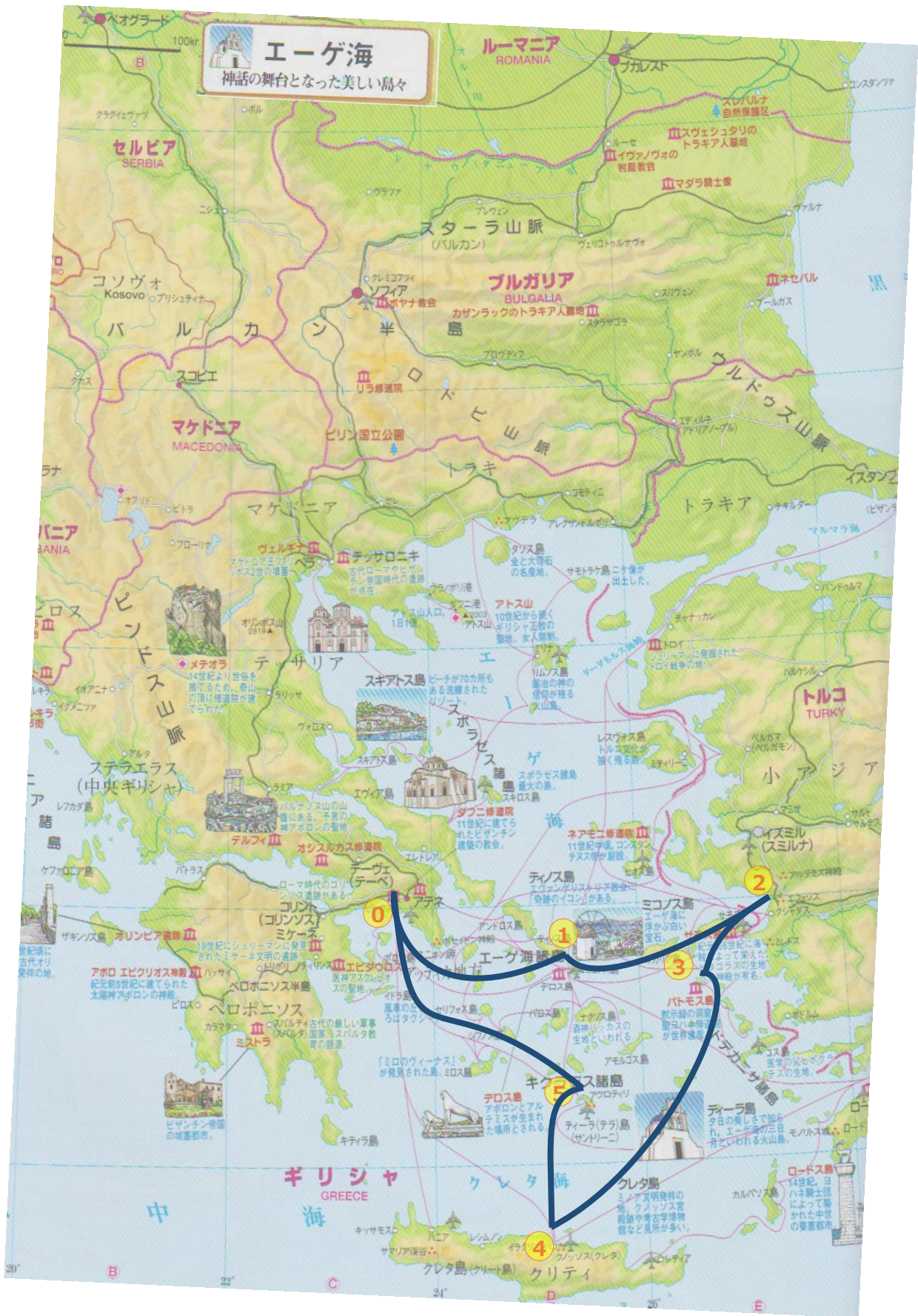
**まだまだある！**  
**エーゲ海クルーズ**  
**セレスティアル・クルーズ**  
 エーゲ海クルーズは旅行のスケジュールに合わせて日程や寄港地などもいろいろ選ぶことができる。

**3泊4日クルーズ日程表**

船名	乗客数	入船料	定額料
1泊	ビレウス		1100
2泊	ニコス島	1800	2300
3泊	クササダ(トルコ)	0700	1300
4泊	パトモス島	1600	2100
5泊	ロドス島	0700	1800
6泊	クレタ島	0700	1130
7泊	サントリーニ島	1630	2100
8泊	ビレウス		0600

※※こちらが、クルーズの紹介ページ、右ページの中ほどの3泊4日パターンだった。





帝国書院「旅に出たくなる地図-世界編」より改変



1日目

5:45自宅発

5:59京浜東北線 浦和→日暮里

6:35スカイライナー3号 日暮里→7:11成田空港(第1ターミナル)

4Fのカウンターで搭乗券を受け取る→ターキッシュのカウンターでトランクを預ける。→添乗員によるコース説明→手荷物検査→出国手続き→No.34ゲートへ

1日目

7月30日(木)

都市名	時刻	交通機関	スケジュール
成田国際空港発	10:05	TK-0051	《空路、イスタンブールへ》 (所要時間：12時間40分)
イスタンブール着	16:45		着後、航空機を乗り継ぎ
イスタンブール発	19:00	TK-1843	《空路、アテネへ》 (所要時間：1時間30分)
アテネ着	20:30		着後、バスにてホテルへご案内します。 (約35km)
	22:30		ホテル到着予定です。

〈アテネ泊〉



← No.34ゲートと ↓ 「飛んでイスタンブール」な搭乗券



**A330-300**  
(Total: 26)

Specification	Value
Number of aircraft	26
Seating Capacity	289
Maximum Takeoff Weight	233,000 kg
Wingspan	60,30 m
Length	63,69 m
Height	17,40 m
Maximum Altitude	12,500 m / 41,100 ft
Maximum Cargo Capacity	37,578 kg / 105,95 m <sup>3</sup>

行きの 成田→イスタンブール  
帰りの アテネ→イスタンブール  
イスタンブール→成田 で搭乗

9:25搭乗手続開始

機種は Airbus A330-300 だった。エコミナーなのでシートは狭いが、前の方がリクライニングしなかったので、まあなんとか居られた。海外の航空会社に乗るのは初めての経験である。昔と違ってインターネットから情報を得られるのであまり不安は感じないが、まわりを見回すと実に様々な国籍の人が乗っているものと感心する。

10:05出発

予定時刻より10分遅れで機体が動き出す。空港の整備員が手を振ってお見送り。その後延々と空港内を走行する。

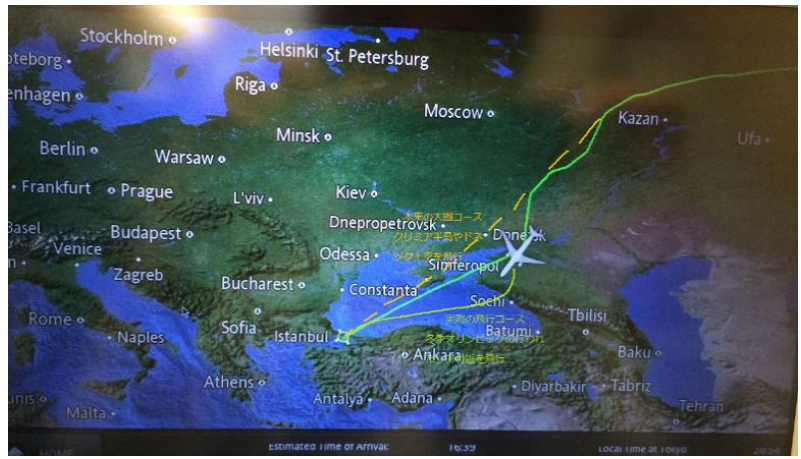
10:30成田空港を離陸

進路は 北北西。群馬県→新潟県を通過し、日本海へ出る。佐渡島をかすめてからしばらくは北へコースをとる。台風12号くずれの低気圧の影響がよく揺れる。ロシア上空に入ったところにクルミ入りのヌガー状のトルコのお菓子が出る。続いて、アメニティーグッズ(スリッパ等)が出てきて、離陸後約1時間に機内食になる。ネット上の評価どおりなかなかおいしいがかなりボリュームもある。ロシア上空も雲が多く、地表が見えたのはバイカル湖の北辺周辺だけだった。シートの前にあるディスプレイでは、現在公開中の「アヴェンジャーズ・エイジ・オブ・ウルトロン」が見られて得た気分(日本向けでは、機内エンターテイメントに日本語版を用意してある)。また、フライトインフォメーションで地図と飛行状況がリアルタイムで見られるのは社会科教師としては楽しめた。

17:00ごろ(日本時間)最北端になるノボシビルスク北方を通過する。以前、イタリアに行ったときよりも、かなり南寄りを飛行しているようだ。

ところで本来の飛行計画では、ウクライナやクリミア半島上空を飛行するのだが、実際にはウクライナが近づくと南にコースを変え、紛争地のドネツクやクリミア半島には向かわなかった(右の地図参照)。

帰国後に調べてみると2014年1月のマレーシア機撃墜事件の後、国際線の旅客機はウクライナ上空を通らないという取り決めができているらしい(ちなみにターキッシュ・エアは全日空と同じスター・アライアンス・グループ)。



(ここから現地時間 日本との時差6時間)

### 16:30イスタンブール国際空港に到着

乗継便のため入国審査なしで出発ロビーへ、イスタンブール国際空港は、アテネはもちろん成田よりも賑わっている印象を受けた。おそらく、ターキッシュのハブ空港だと言うだけでなく、長い間アジア・ヨーロッパ・アフリカ3州の結合点であったことが大きいのではと考えた。

イスタンブール→アテネ間で搭乗 今回乗った唯一のボーイング機、やはりヨーロッパではエアバスが優勢か

### 19:10アテネに向かう

約1.5時間の待ち時間の後に出発。なんか眠いなと思ったが、考えてみたら日本時間では日付が変わって午前1時。無理もないと納得した。ここでも機内食が出る。夕食にしては軽めと言っていたが、しっかり一食分のボリュームがあるんですけど…。

B777-300 ER Specifications	
Number of aircraft	20
Seating Capacity	337-349
Maximum Takeoff Weight	351,534 kg
Wingspan	64,80 m
Length	73,90 m
Height	18,60 m
Maximum Altitude	13,140 m / 43,100 ft
Maximum Cargo Capacity	57,784 kg / 213,85 m³

### 20:20 アテネ空港に到着

約1時間の飛行で到着。ようやく日没になった(ヨーロッパではサマータイムなので、時計の針を1時間ずらしている)。到着ロビーこそ国際空港らしい賑わいを見せていたが、入国ゲート通過後にバスでアテネ市内に向かう途中は、ほとんど真っ暗。まるで人家らしきものが見つからない。

アテネの市街に入るまでの30分ほどこんな状態。市街地に入ってなんとなく懐かしいデジャブを感じた。そう、昭和の匂いだ！でも何で？

(後に分かったのだが、他のヨーロッパ諸国のように電線が地中化されていないので①街中でも「電柱」が林立していること、②アテネ市内のどこからでもアクロポリスの丘が望めるように高層建築が制限されており、さらに長期の経済停滞で古い建物が多く、高くても7~8階建ビルがほとんどであることが原因であろうかと思われる。)

### 21:45ホテル着

日本から16時間強である。さすがに体力の限界、爆睡する。ちなみにこのホテルで入手した観光客向けのアテネの地図が、ギリシャで入手できた最良の物であった。

こちらが1泊目のゴールデン・シティー・ホテル  
アクロポリスから北西に約2km  
最終日に行った「国立博物館」の近く

